



住建総合技術センター
センター長

山田 昌司

Director
General Technology Center,
Building Products Manufacturing
Business Unit

Masashi Yamada

特集「住宅設備・建材技術」によせて

最近の住宅設備・建材の事業環境は少子高齢化、人口減のトレンドの影響から国内住宅市場はシュリンクし、今後も好転する期待がもてない非常に厳しい状況にあります。また、業界においても再編、アライアンスなどの合従連衡による経営効率を求めた変革が必然的に行われつつあります。このような環境のなかで、当社も「モノづくり」の視点を大きく変える必要があります。

一点目はグローバル展開であり、日本で磨き上げられた高品質の設備、建材は必ず国外でも評価されると確信しております。そのなかで残された課題は、培った技術をいかに各国の生活文化や風土に適応した製品に仕上げるかということと、またいかに新しい生活快適価値をパナソニックとして提供できるかということです。

二点目はお客様の満足度の向上であり、顕在ニーズを形にするだけではもはや満足していただかず、潜在ニーズを形にして新たな感動を届けられるレベルまで磨き上げることが必要です。そのためには単なる設備や部材ではなく、空間を構成し、その群としての相乗的な空間価値を個々のお客様に合わせて提供することがますます重要となってきます。そういった意味でパナソニックグループは幅広い先進的技術を多く保有しており、あらゆる技術を融合させて一層の顧客満足をいただけるよう「生活快適実現事業」を強力に推進しています。

そこで、当社住建事業部門では四つのコア技術と三つの基盤技術に的を絞り、その技術の深耕と育成に注力しております。

(1) コア技術

- ①微細気泡と剤やガスの組合せで湯や水に新機能を付加して快適入浴、洗浄力アップ等を実現する微細気泡発生技術
- ②日常の家事や生活のなかの動作、収納作業等を快適かつ安全にアシストする駆動機構・制御技術
- ③水周り、内周り、外周りに使用される樹脂、金属、木質材料に汚れが付きにくく、また取れやすくする配合、改質などの材料・表面処理技術
- ④ケナフ繊維応用ボード、木片・樹脂複合材料、FRP 亜臨界分解リサイクル、省エネルギーによる CO₂ 削減などの環境対応技術

(2) 基盤技術

- ①最速、最安、最エコロジーを実現する「モノづくり」の工法・生産技術
- ②オリジナリティや新たな付加価値を付与する樹脂配合・成形技術
- ③快適や使い勝手を科学で捉える生体・五感に関する定量化・評価技術

これらのコア技術と基盤技術を融合して「モノづくり」のレベルアップを図るとともに、製品の価値（快適、感動）をお客様に見える形で伝えるアカデミックマーケティングを展開して参ります。

さらに、当社の保有している多様な高い技術に横串を通し、情報ネットワークで有機的に各機能をつないだ「電情建融合^{*1)}」による新しいエコロジー・省エネルギー、快適・便利、美容・健康、安心・安全を実現し、感動のライフスタイルを創出して参ります。

本号では、住宅設備、建材製品、「モノづくり」に幅広く展開できる技術の一端を紹介しておりますので、ぜひご高覧賜り、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

*1) 電情建融合：住建事業分野と情報配線機器や照明器具などの電材事業分野、健康機器などの電器事業分野とを融合させた事業分野